

令和2年度(2020年度)用

小学校国語科用

「新しい国語」 年間指導計画作成資料 【1年】

令和元年(2019年)7月19日版

※単元ごとの配当時数、主な学習活動、評価規準などは、今後変更になる可能性があります。ご了承ください。

東京書籍

「新しい国語」(第1学年)年間指導計画

■「評価の観点及びその趣旨」,「学年別の評価の観点の趣旨」の作成について

単元の指導計画・評価計画の作成に当たっては、各学校の実態に応じて目標に準拠した評価を行うために、学習指導要領に示された教科の目標を踏まえた「評価の観点及びその趣旨」と、学年の目標を踏まえた「学年別の観点の趣旨」を作成します。

なお「主体的に学習に取り組む態度」の観点は、教科および学年の目標の(3)のうち、観点別学習状況の評価を通じて見取る部分をその内容として整理し、作成します。

小学校国語科の目標と「評価の観点及びその趣旨」

小学校学習指導要領 第2章 第1節 国語「第1 目標」

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)	(2)	(3)
日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。	言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

評価の観点及びその趣旨 <小学校 国語>

知識・技能	思考・表現・判断	主体的に学習に取り組む態度
日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言葉がもつよさを認識しようとしているとともに、言語感覚を養い、言葉をよりよく使おうとしている。

第1学年及び第2学年の目標と「評価の観点の趣旨」

小学校学習指導要領 第2章 第1節 国語「第2 各学年の目標及び内容〔第1学年及び第2学年〕 1 目標」

(1)	(2)	(3)
日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。	言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

評価の観点の趣旨 <小学校 国語> 第1学年及び第2学年

知識・技能	思考・表現・判断	主体的に学習に取り組む態度
日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもっている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えをもったりしながら、言葉がもつよさを感じようとしているとともに、楽しんで読書をし、言葉をよりよく使おうとしている。

■評価規準

【知・技】…「知識・技能」の観点および学習指導要領との対応

【思・判・表】…「思考・判断・表現」の観点および学習指導要領との対応

【主】…「主体的に学習に取り組む態度」の観点

※◎は、重点指導事項に対応する評価規準を示す。

※学習指導要領との対応に示した記号は以下の通り。(「◇言語活動」においても同様)

〔知識及び技能〕(1)…言葉の特徴や使い方に関する事項 (2)…情報の扱い方に関する事項 (3)…我が国の言語文化に関する事項

〔思考力・表現力・判断力等〕A…話すこと・聞くこと B…書くこと C…読むこと

単元の指導計画・評価計画案

4月教材群		※児童の実態や学校生活の流れに合わせて、学習活動の一つ取り出したり、複数を組み合わせたりして、1回当たり5～15分程度で扱う。
教材／想定される10の姿の例	●単元のねらい／主な学習活動／評価規準(学習指導要領との対応)	他教材や他教科との合科的・関連的な指導のアイディア
さあはじめよう 2時間(読2)／教:上 P.1～7 協同性 文字等への関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現	●言葉のリズムを楽しみながら、みんなといっしょに声を出すことができる。 ・教科書をめくり、4見開きを通して見て、見つけたことや気づいたことを話す。 ・教師が教材の読み聞かせをするのを聞き、言葉のリズムを体の動きで表してみる。 ・教科書の言葉を読み、声の出し方を考えて、実際にやってみる。 【知・技】(1)イ(姿勢に注意して話している)・ク(言葉の響きやリズムに気をつけて音読している)【思・判・表】C(1)力(読んだ感想を共有している)	・教室での学習の始まりで繰り返し扱い、学習のリズムを作る。
よろしくね 1時間(話聞1)／教:上 P.10～11 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 思考力の芽生え 言葉による伝え合い	●他者に関心を持ち、名前などを伝え合って、互いのことを知ることができる。 ・教師の自己紹介を聞く。名前を伝える話型を確かめ、名前の他に伝え合うことを決める。 ・いろいろな友達と自己紹介をし合って握手をする。 【知・技】(1)オ(身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っている) 【思・判・表】A(1)ア(伝えることを選んでいる)・エ(集中して聞いている)	・図工の時間に描いた「好きなもの」の絵を見せて、自己紹介をする。 ・生活科の探検活動で、学校で働くいろいろな先生に会って自己紹介をする。
ひとつつながることば 2時間(話聞2)／教:上 P.12～13 自立心 社会生活との関わり 思考力の芽生え 言葉による伝え合い	●人と関わるときに大切な言葉に気づき、使うことができる。 ・教科書の絵を見て、それぞれの人物がどんな言葉を使っているかを想像して出し合う。 ・幼稚園などで、先生や友達、家族と話すときに使っていた挨拶などの言葉を発表する。 ・これから学校生活で使いたい言葉や場面を考える。 【知・技】(1)オ(身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っている) 【思・判・表】A(1)ア(伝えることを選んでいる)	・生活科の探検活動で、学校で働くいろいろな先生に会ったときに挨拶をする。 ・道徳の時間に、挨拶などについて、教室の約束作りをする。
こえをとどけよう 1時間(話聞1)／教:上 P.14～15 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 思考力の芽生え 言葉による伝え合い	●相手との距離などによって、必要な声の大きさが違うことに気づくことができる。 ・児童と教師が教室の両端に分かれ、児童全員で教師の名前を呼ぶ。教師は手を挙げて返事をする。 ・2人ずつ前に出て、それぞれ誰を呼ぶかを話し合い、決めた友達の名前を呼ぶ。他の児童は教室の反対側に座って聞き、名前を呼ばれた児童は、聞こえたら返事をする。 【知・技】(1)イ(姿勢や発声に注意して話している) 【思・判・表】A(1)ウ(相手に届く声の大きさを考えて話している)	・「よろしくね」で知った友達の名前を呼ぶ。 ・生活科の探検活動で見つけたことについて、みんなの前で話す。
えんぴつをつかうときにたしかめよう 1時間(知技1)／教:上 P.16～17 健康な心と体 自立心 思考力の芽生え 文字等への関心・感覚	●姿勢や鉛筆の持ち方、手の置き方を知り、鉛筆を使うことに関心を持つことができる。 ・教科書の写真を見て、姿勢や手の置き方を確かめる。 ・教科書の唱え歌に合わせて体を動かし、鉛筆の持ち方や姿勢を確かめる。 【知・技】(1)ウ(文字を書く用意している)	・生活科の時間に、校庭で見つけたものの名前を書くとときや、算数の時間に、数字を書くとときに、姿勢のかっこよさに着目させる。
かいてみよう 1時間(知技1)／教:上 P.18～19 自立心 思考力の芽生え 文字等への関心・感覚	●簡単なひらがな6字を書き、文字や言葉への関心を持つことができる。 ・姿勢や鉛筆の持ち方、手の置き方を確かめて、運筆練習をする。 ・練習した鉛筆の動きを生かして「つ」「く」「し」「へ」「い」「こ」を書く。 ・書いた6字を使う言葉を集めたり、6字を組み合わせることができる言葉を探したりする。 【知・技】(1)ウ(簡単な平仮名を書いている)	・生活科の探検活動で見つけたものの中から、「つ」「く」「し」「へ」「い」「こ」の付く言葉を探す。
あいうえおのうた 2時間(知技2)／教:上 P.20～21 健康な心と体 自立心 思考力の芽生え 文字等への関心・感覚 豊かな感性と表現	●語のまとまりや口形に気をつけて音読することができる。 ・「あいうえおのうた」を音読する。 ・「あいうえおのうた」と教科書の挿絵を照らして、語のまとまりを確かめる。 ・教科書の写真やマークを参考に、「あ」「い」「う」「え」「お」の口形が異なることを確かめる。 【知・技】(1)イ(姿勢や口形、発声や発音に注意して話している)・ク(語のまとまりに気をつけて音読している)	・生活科の時間に、見つけたものがみんなに伝わるようにはっきりとした声で話す。 ・遠足で、「あいうえおのうた」をみんなで口ずさみながら歩く。
あいうえおのことばをあつめよう 3時間(知技3)／教:上 P.22～23 自立心 思考力の芽生え 文字等への関心・感覚	●音節と文字との関係に気づき、「あ」「い」「う」「え」「お」の付く言葉を身の回りから集めることができる。 ・「あ」「い」「う」「え」「お」の音と文字を確かめて、書く練習をする。 ・挿絵と文字や記号などを結び付けながら声に出し、文字と音節の対応を捉える。 ・教科書の挿絵のほかに、「あ」「い」「う」「え」「お」の付く言葉を集める。 【知・技】(1)イ(音節と文字との関係に気づいている)・ウ(平仮名を読み、書いている)・オ(身近なことを表す語句の量を増している)	・生活科の探検活動で見つけた物の中から、「あ」「い」「う」「え」「お」の付く言葉を探す。
ほんがたくさん 2時間(読2)／教:上 P.24～25 自立心 思考力の芽生え 文字等への関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現	●読み聞かせを聞き、本を読むことへの関心を持つことができる。 ・幼稚園などで読み聞かせしてもらったお話の中で、覚えているお話などを発表する。 ・いろいろな本の読み聞かせや紹介を聞いて、思ったことや分かったことを交流する。 ・学校図書館に行き、本棚を見て、気になる本を言い合ったり、実際に開いてみたりする。 【知・技】(3)エ(いろいろな本があることを知っている)【思・判・表】C(1)力(本の感想を共有している) (2)イ(読み聞かせを聞いて感想を交流している)	・生活科の学校探検で、学校で働く人を探し、学校司書の先生を見つけて話を聞く。 ・生活科の校庭探検の前に、春を題材にした絵本や図鑑などの読み聞かせをする。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元のねらい／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
5	<p>あめですよ</p> <p>4時間(読4) 教科書:上巻 P.26～31</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉のリズムをとらえて声に出す。(1上「さあはじめよう」) 口形を意識して、明瞭な発音で音読する。(1上「あいうえおのうた」) 	<p>●絵と言葉を結び付けて、場面や人物の様子を思い浮かべ、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けながら音読することができる。</p> <p>◇お話の内容や感想を伝え合ったり、演じたりする。C(2)イ</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 雨に関する体験を想起し、全文の音読を聞いて、単元の学習課題をつかむ。 絵の人物や擬声語を比べ、様子を想像して気づいたことや思ったことを伝え合う。 場面の様子を想像しながら音読する。 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。C(1)イ ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。C(1)オ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに読み聞かせを聞いたり絵本を読んだりした経験を生かしながら、積極的に、絵と言葉を結び付けて内容の大体を捉え、声や動作で表現することを楽しもうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の時間に、雨の日の校庭の様子を観察する。
5	<p>ゝやゝのつくじ</p> <p>3時間(知技3) 教科書:上巻 P.32～33</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 一文字一音節の基本的な対応を動作化で表す。(1上「あいうえおのことばをあつめよう」) 清音と濁音の音を比べながら、場面の様子を思い浮かべる。(1上「あめですよ」) 	<p>●清音、濁音、半濁音の表記と音の違いを理解して、読んだり書いたりすることができる。</p> <p>◇身の回りにある濁音や半濁音を含む語を集める。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 単元の学習課題をつかむ。 清音の語と濁音・半濁音を含む語を比べて読んだり書いたりしながら、濁点や半濁点が付くことで発音や意味が異なることを理解する。 身の回りにある濁音・半濁音を含む語を読んだり書いたりする。 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音節と文字との関係に気付くとともに、発声や発音に注意して話している。(1)イ ◎濁音や半濁音の表記を理解して、平仮名を読み、書いている。(1)ウ ・身近なことを表す語句の量を増している。(1)オ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことなどを生かしながら、工夫して、濁音と半濁音の表記を理解し、身の回りにある濁音や半濁音を含む語を集めようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の校内探検や季節探検で言葉見付けをする。
5	<p>ぶんをつくろう</p> <p>2時間(書2) 教科書:上巻 P.34～35</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <p>濁音や半濁音の表記を理解し、正しく読んだり書いたりする。(1上「ゝやゝのつくじ」)</p>	<p>●主語と述語との関係を考えて、「○○が…する。」の文型で、意味が明確な文を作ることができる。</p> <p>◇写真を基にした文を作る。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 単元の学習課題をつかむ。 助詞「が」の働きを知り、主語と述語のある文を作る。 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・句点の打ち方を理解して文の中で使っている。また、平仮名を読み、書いている。(1)ウ ◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)カ <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことなどを生かしながら、積極的に、主語と述語との関係に気付こうとし、写真を基に助詞の「が」を使った文を作ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の校内探検や季節探検で見つけたものの動きを表す文を作る。 ・生活科の時間に、学校で働く人がしていることを文で伝える。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元のねらい／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
5	<p>みんなに はなそう</p> <p>4時間(話聞4) 教科書:上巻 P.36～39</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <p>・はっきりとした発声・発音になるよう、口形を意識して話す。(1上「あいうえおのうた」)</p> <p>・相手に聞こえる声の大きさを考えて話す。(1上「こえをとどけよう」)</p>	<p>●身の回りで見つけたものの中から紹介するものを決め、相手に聞こえるように、声の大きさを工夫して話すことができる。</p> <p>◇紹介したいことを話したり、それを聞いて声に出して確かめたりする。A(2)ア</p> <hr/> <p>1 単元の学習課題をつかむ。</p> <p>2 身の回りで見つけたものを出し合い、クイズにして発表するものを決める。</p> <p>3 クイズのやりとりをする話型を確かめ、話したり聞いたりする。</p> <p>4 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ</p> <p>・身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っている。(1)オ</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。A(1)ア</p> <p>◎「話すこと・聞くこと」において、相手に応じて、声の大きさを工夫している。A(1)ウ</p> <p>【主】</p> <p>・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことなどを生かしながら、積極的に、声の大きさを工夫して、紹介しようとしている。</p>	<p>・生活科の時間に校庭で春探しをして見つけたものを伝え合う。</p> <p>・図工の時間に、校庭で見つけたものの絵を描いて鑑賞し合う。</p>
5	<p>さとうと しお</p> <p>4時間(読4) 教科書:上巻 P.40～47</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <p>問いかけたり答えたりする。(1上「みんなにはなそう」)</p>	<p>●事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、自分の体験と結び付けて感想をもつことができる。</p> <p>◇説明的な文章を楽しんで読み、分かったことを伝え合う。C(2)ア</p> <hr/> <p>1 単元の学習課題をつかむ。</p> <p>2 問いごとに砂糖と塩を比べながら、書かれていることを読み取る。</p> <p>3 単元の学習を振り返る</p>	<p>【知・技】</p> <p>・文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)カ</p> <p>・敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ</p> <p>・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア</p> <p>【思・判・表】</p> <p>◎「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。C(1)ア</p> <p>・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。C(1)オ</p> <p>【主】</p> <p>・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことなどを生かしながら、積極的に、事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉え、分かったことを伝え合おうとしている。</p>	<p>・給食指導に活用する。</p>

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元のねらい／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
5	<p>はを つかおう</p> <p>1時間(書1) 教科書:上巻 P.48～49</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 語と語との続き方に気をつけて文を作る。(1上「ぶんをつくろう」) 助詞「は」を用いた説明的な文章を読む。(1上「さとうとしお」) 	<p>●助詞の「は」の使い方を理解して、一文の意味が明確になるように文を書くことができる。</p> <p>◇「は」と「わ」のどちらを書くのが正しいかを考えて文を作る。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 単元の学習課題をつかむ。 助詞の「は」の使い方を知り、正しく読みだり書いたりする練習をする。 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <p>◎助詞の「は」の使い方を理解して文の中で使っている。また、平仮名を読み、書いている。(1)ウ</p> <p>・文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)カ</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ</p> <p>【主】</p> <p>・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、助詞の「は」の使い方を理解しようとし、正しく使って文を作ろうとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活科の校内探検や季節探して見つけた人やものの様子を表す文を作って書くときに、「は」「わ」のどちらを使うのが正しいかを考える。
5	<p>とん こと とん</p> <p>5時間(読5) 教科書:上巻 P.50～55</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <p>助詞「は」の使い方を理解する。(1上「はをつかおう」)</p>	<p>●場面の様子や人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。</p> <p>◇お話を読み、内容や感想などを伝え合ったり演じたりする。C(2)イ</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 単元の学習課題をつかむ。 ねずみともぐらの行動を中心に、場面の様子や人物の会話を想像しながら読む。 お話の場面を想像しながら、音読を楽しむ。 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <p>・敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ</p> <p>・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク</p> <p>【思・判・表】</p> <p>◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。C(1)イ</p> <p>【主】</p> <p>・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かしながら、進んで、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、役割を決めて音読したり演じたりしようとしている。</p>	
6	<p>をへを つかおう</p> <p>2時間(書2) 教科書:上巻 P.56～57</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <p>語と語との続き方に気をつけて文を作る。(1上「ぶんをつくろう」)</p>	<p>●助詞「を」「へ」の使い方を理解して、一文の意味が明確になるように文を書くことができる。</p> <p>◇「を」と「お」、「へ」と「え」のどちらを使うのが正しいかを考えて文を作る。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 単元の学習課題をつかむ。 助詞「を」「へ」の使い方を知り、正しく読みだり書いたりする練習をする。 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <p>◎助詞の「を」及び「へ」の使い方を理解して文の中で使っている。また、平仮名を読み、書いている。(1)ウ</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ</p> <p>【主】</p> <p>・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、助詞の「を」及び「へ」の使い方を理解しようとし、正しく使って文を作ろうとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活科の時間に学校で働く人のしていることを文で書くときに、「を」と「お」、「へ」と「え」のどちらを使うのが正しいかを考える。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元のねらい／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
6	<p>きいて つたえよう</p> <p>3時間(話聞3) 教科書:上巻 P.58～59</p> <hr/> <p>既習事項との関連 相手に聞こえる声の大きさを考えて話す。(1上「こえをとどけよう」)</p>	<p>●だいたいなことを落とさないように集中して聞き、グループの人に正しく伝えることができる。</p> <p>◇先生からポーズの指令を聞いて、グループのみんなに伝える。</p> <hr/> <p>1 単元の学習課題をつかむ。 2 活動の進め方を知り、聞き方や伝え方について考える。 3 話の聞き方や声の大きさに注意して、ゲームを楽しむ。 4 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ</p> <p>【思・判・表】 ◎「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞いている。A(1)エ</p> <p>【主】 ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かしながら、粘り強く、だいたいなことを落とさないように集中して聞き、先生からの指令どおりに、グループのみんなとポーズをとろうとしている。</p>	<p>・学級会活動やレクリエーションで仲良く遊ぶ。</p>
6	<p>ちいさい っ</p> <p>3時間(知技3) 教科書:上巻 P.60～61</p> <hr/> <p>既習事項との関連 一文字一音節の基本的な対応を理解し、動作化する。(1上「あいうえおのことばをあつめよう」「や」のつくじ)</p>	<p>●促音の表記と音節の対応を理解して、読んだり書いたりすることができる。</p> <p>◇身の回りにある促音を含む語を集める。</p> <hr/> <p>1 単元の学習課題をつかむ。 2 促音を含む語と含まない語を比べて読んだり書いたりしながら、促音の発音や役割を理解する。 3 身の回りにある促音を含む語を、動作化しながら読んだり、書いたりする。 4 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ・音節と文字との関係に気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ</p> <p>◎促音の表記を理解して、平仮名を読み、書いている。(1)ウ</p> <p>・身近なことを表す語句の量を増している。(1)オ</p> <p>【主】 ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことなどを生かしながら、工夫して、促音の表記を理解し、身の回りにある促音を含む語を集めようとしている。</p>	<p>・生活科の時間に観察したことを書くとき、動作化をしながら促音の表記を確かめる。</p>
6	<p>ことばあそび</p> <p>3時間(知技3) 教科書:上巻 P.62～63</p> <hr/> <p>既習事項との関連 ・濁音や半濁音の表記を理解して読み書きする。(1上「や」のつくじ) ・促音の表記を理解して読み書きする。(1上「ちいさいっ」)</p>	<p>●言葉遊びに親しみながら、平仮名を読んだり書いたりすることができる。</p> <p>◇文字を使って言葉遊びをする。</p> <hr/> <p>1 単元の学習課題をつかむ。 2 教科書のしりとりやことばみつけをしながら、その決まりを理解するとともに、平仮名の読み書きに習熟する。 3 身の回りの言葉を使ってしりとりやことばみつけをして、語彙を増やす。 4 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ・音節と文字との関係に気付いている。(1)イ</p> <p>◎平仮名を読み、書いている。(1)ウ</p> <p>・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。(3)イ</p> <p>【主】 ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、平仮名を読んだり書いたりして、文字を使った言葉遊びを楽しもうとしている。</p>	<p>・学級会活動やレクリエーションで仲良く遊ぶ。</p>

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元のねらい／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
6	あひるの あくび 4時間(知技4) 教科書:上巻 P.64～67 ----- 既習事項との関連 母音の口形を確かめて、明瞭な発音・発声で話す。(1上「あいうえおのうた」)	●五十音図の特徴を理解して、平仮名を正しく読み、姿勢や口形、発声や発音に注意して声に出すことができる。 ◇詩を音読したり、五十音図を声に出したりする。 ----- 1 単元の学習課題をつかむ。 2 「あひるのあくび」の詩の仕組みを理解する。 3 教科書P.66～67の五十音を音読したり視写したりして、その特徴に気づく。 4 「あひるのあくび」をまねて、詩を作る。 5 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ◎音節と文字との関係などに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ ・平仮名を読み、書いている。(1)ウ ・語句のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク 【主】 ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、音節と文字との関係などに気付こうとするとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して、詩を音読したり五十音図を声に出したりしようとしている。	
6	のばす おん 3時間(知技3) 教科書:上巻 P.68～69 ----- 既習事項との関連 ・促音を動作化して文字と音節の対応を理解して読み書きする。(1上「ちいさいっ」) ・五十音図の特徴を理解して、平仮名を正しく読み書きする。(1上「あひるのあくび」)	●長音の表記と音節の対応を理解して、読み書きしたりすることができる。 ◇身の回りにある長音を含む語を集める。 ----- 1 単元の学習課題をつかむ。 2 長音を含まない語と含む語を比べて読み書きしたりしながら、発音や表記のきまりを理解する。 3 身の回りの長音を含む語を探して、読み書きしたりする。 4 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ・音節と文字との関係に気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ ◎長音の表記を理解して、平仮名を読み、書いている。(1)ウ ・身近なことを表す語句の量を増している。(1)オ 【主】 ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かしながら、工夫して、長音の表記を理解し、身の回りにある長音を含む語を集めようとしている。	・生活科の時間に、観察して見つけたことを記録するとき、動作化をしたり、伸ばして残る音を確かめたりして、表記を見直す。
6	どうやって みを まもる のかな 6時間(書2読4) 教科書:上巻 P.70～77 ----- 既習事項との関連 事柄の順序などを考えながら読み、説明した文章の内容の大体を捉える。(1上「さとうしお」)	●事柄の順序を考えながら読み、文章の中の重要な語や文を選び出すことができる。 ◇説明的な文章を読み、分かったことをまとめる。(C)(2)ア ----- 1 単元の学習課題をつかむ。 2 説明されている内容への感想を持つ。 3 「どんなからだをしているか」について、3つの事例を比較しながら読む。 4 「どうやってみをまもるのか」「てききたらどうするのか」について、3つの事例を比較しながら読む。 5 説明の順序(段落構成・文構成)を確かめる。 6 動物の身の守り方について、感想を持ち、単元の学習を振り返る。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)カ ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア 【思・判・表】 ◎「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を選び出している。C(1)ウ ・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ 【主】 ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、文章の中の重要な語や文を選び出し、読んで分かったことをまとめようとしている。	・生活科で観察した生き物について、絵本や図鑑などで調べ、説明文と似た文章を作ってみる。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元のねらい／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
6	<p>ちいさい やゆよ</p> <p>3時間(知技3) 教科書:上巻 P.78～79</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・促音の表記を理解して、読み書きする。(1上「ちいさいっ」) ・長音の表記を理解して、読み書きする。(1上「のばすおん」) 	<p>●拗音、拗長音及び拗促音の表記と音節の対応を理解して、読んだり書いたりすることができる。</p> <p>◇身の回りにある拗音を含む語を集める。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1 単元の学習課題をつかむ。 2 拗音を含まない語と含む語を比べて読んだり書いたりしながら、発音や表記のきまりを理解する。 3 教科書 P.79 の絵を見て、それぞれの語を声に出して音を確認めるとともに、視覚化したり動作化したりしながら、拗音・拗長音・拗促音の音節と文字の対応を理解する。 4 身の回りの拗音を含む語を探して、読んだり書いたりする。 5 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音節と文字との関係に気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ ◎拗音、拗長音、拗促音の表記を理解して、平仮名を読み、書いている。(1)ウ ・身近なことを表す語句の量を増している。(1)オ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かしながら、工夫して、拗音、拗長音及び拗促音の表記を理解し、身の回りにある拗音を含む語を集めようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の時間に、観察して見つけたことを記録するときなど、動作化をして、表記を確認する。 ・生活科などの時間に、拗音が含まれる語が出る際、教師が口頭で伝え、児童が聴写する。
6	<p>こんな こと したよ</p> <p>4時間(書4) 教科書:上巻 P.80～83</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語と語との続き方に気をつけて文を作る。(1上「ぶんをつくろう」) ・助詞「は」「へ」「を」の使い方を理解する。(1上「はをつかおう」「をへをつかおう」) ・特殊音節と文字との対応を理解する。(1上「ちいさいっ」「のばすおん」「ちいさいやゆよ」) 	<p>●伝えたい内容が明確になるように、語と語や文と文との続き方に気を付けて、文章を書くことができる。</p> <p>◇経験したことを伝える文章を書く。B(2)ア</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1 単元の学習課題をつかむ。 2 学校での出来事を思い浮かべて、様子が伝わるように文章を書く。 3 書いた文章を読み合い、感想を伝え合い、単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ ・身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。(1)オ <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見付けている。B(1)ア ◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意している。B(1)ウ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かしながら、粘り強く、語と語や文と文との続き方に注意して、経験したことを伝える文章を書こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科で観察して見つけたことを記録する。 ・一日を振り返り、家の人に伝えたいと思った楽しかったことを文章に書く。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元のねらい／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
7	<p>おおきな かぶ</p> <p>6時間(話聞1読5) 教科書:上巻 P.84～95</p> <hr/> <p>既習事項との関連 語や文のまとまりに気をつけて音読しながら、様子を思い浮かべてお話を楽しむ。(1上「とんこととん」)</p>	<p>●場面の様子の違いに着目して読み、人物の行動を具体的に想像することができる。</p> <p>◇お話を読み、内容を伝え合ったり音読したりする。C(2)イ</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 単元の学習課題をつかむ。 お話の大体をとらえる。 お話の順序を確かめ、場面の様子を想像する。 グループで音読の練習をする。 グループで音読発表を行う。 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。C(1)エ ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。A(1)ウ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、場面の様子に着目して人物の行動を具体的に想像し、音読して伝え合おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会などで繰り返しを楽しめる絵本を読み聞かせ、「おおきなかぶ」との共通点(同じところ)や相違点(違うところ)探しをする。
7	<p>かぞえうた</p> <p>5時間(知技5) 教科書:上巻 P.96～99</p>	<p>●物の数え方に関わる語彙を豊かにするとともに、漢数字を読んだり書いたりすることができる。</p> <p>◇「かぞえうた」を音読したり、身の回りの物を数えたりする。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 単元の学習課題をつかむ。 漢数字「一」「二」「三」の読み書きをする。 漢数字「四」「五」「六」の読み書きをする。 漢数字「七」「八」「九」の読み書きをする。 漢数字「十」の読み書きをして、自分の数え歌を完成させて、読み合ったり聞き合ったりする。 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別表の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書いている。(1)エ ◎身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(1)オ。 <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、物の数え方についての語句の量を増し、数詞や漢数字を用いて身の回りの物を数えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の時間に観察をして数を数えるとき、どんな数詞を使うか考える。 ・算数の授業で学習した算用数字と照合させ、基本的には横書きの際には算用数字、縦書きの際には漢数字を使用することを学ばせる。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元のねらい／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
7	えにっきを かこう 4時間(書4) 教科書:上巻 P.100～103 ----- 既習事項との関連 ・語と語との続き方に気をつけて文を作る。(1上「ぶんをつくろう」「こんなことしたよ」) ・助詞「は」「へ」「を」の使い方を理解する。(1上「はをつかおう」「をへをつかおう」) ・特殊音節と文字との対応を理解する。(1上「ちいさい」「のばすおん」「ちいさいやゆよ」) ・漢数字の読み方や書き方を知る。(1上「かぞえうた」)	●経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を考えて文章を書くことができる。 ◇日々の出来事について、伝えたいことを絵日記に書く。B(2)イ ----- 1 単元の学習課題をつかむ。 *国語の授業が、午前中(早い時間帯)の場合は、前日の出来事を振り返ってもよいことにする。 2 「えにっき」の書き方を知る。 3 「えにっき」を書く。 4 「えにっき」を友達と読み合い、単元の学習を振り返る。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア ・学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【思・判・表】 ◎「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意している。B(1)ウ 【主】 ・これまでの学習で気付いたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、書くことを見付けて必要な事柄を集め、伝えたいことを明確にして、絵日記を書こうとしている。	・夏休みの中で、心に残ったことがあった日に絵日記を書いておき、みんなに知らせる。 ・図工の時間に、行事を思い出して心に残ったことを絵に描き、文章を添える。
7	としょかんは どんなところ 1時間(知技1) 教科書:上巻 P.104～105 ----- 既習事項との関連 読み聞かせを聞いたり、図書館の本棚を見たりして、本に関心を持つ。(1上「ほんがたくさん」)	●学校図書館を利用して、読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。 ◇学校図書館を利用して読書に親しむ。 ----- 1 単元の学習課題をつかむ。 2 学校図書館での過ごし方を考え、実際に図書館で過ごしてみる。 3 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ 【主】 ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、読書に親しみ、学校図書館を利用していろいろな本を読もうとしている。	・生活科の時間に、観察した植物や生き物について知るために、みんなで学校図書館に行き、図鑑や絵本を探して読む。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元のねらい／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
9	<p>あるけ あるけ おおきく なあれ</p> <p>3時間(読3) 教科書:上巻 P.106～109</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 語のまとまりに気を付けて、様子を思い浮かべながらリズムよく音読する。(1上「あめですよ」) 明瞭な発音に気を付けながら言葉のリズムを楽しんで音読する。(1上「あひるのあくび」) 	<p>●内容の大体を捉えて場面の様子を思い浮かべ、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けながら音読することができる。</p> <p>◇詩を音読する。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 単元の学習課題をつかむ。 詩「あるけ あるけ」を読み味わう。 詩「おおきく なあれ」を読み味わう。 2つの詩から好きなほうを選んで音読する。 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎「読むこと」において、場面の様子など、内容の大体を捉えている。C(1)イ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習で気付いたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、進んで、場面の様子など、内容の大体を捉えて、詩を音読しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 遠足のとき、「あるけ あるけ」をみんなで声に出しながら歩く。 雨の日に、学校の畑の果物を想像しながら、「おおきく なあれ」をみんなで声に出す。
9	<p>はなしたいな ききたいな</p> <p>5時間(話聞5) 教科書:上巻 P.110～113</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手や場に応じた声の大きさを考える。(1上「こえをとどけよう」) 発表することを決めて、みんなの前で話す。(1上「みんなにはなそう」) 経験したことから伝えたいことを決めて文章を書く。(1上「こんなことしたよ」「えにっきをかこう」) 	<p>●経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んで話したり、話を集中して聞いて内容を捉えて感想をもったりすることができる。</p> <p>◇報告したいことをみんなの前で話したり、友達の話を聞いて感想を述べたりする。A(2)ア</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 単元の学習課題をつかむ。 みんなに話したい思い出を選んで、話を組み立てる。 分かりやすく話せるように、工夫する。 みんなの前で話す。 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使っている。(1)キ <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎「話すこと・聞くこと」において、経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。A(1)ア 「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。A(1)ウ 「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。A(1)エ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習で気付いたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んで、経験したことを報告しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の後に、それぞれの思い出を発表し合う。 生活科で、「季節さがし」をして見つけたことや感じたものについてみんなの前で発表する。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元のねらい／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
9	<p>かいがら</p> <p>6時間(話聞1読5)</p> <p>教科書:上巻 P.114～121</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <p>人物の行動を具体的に想像して、音読する。(1上「おおきなかぶ」)</p>	<p>●場面の様子に着目して、人物の行動を具体的に想像することができる。</p> <p>◇お話を読み、人物になったつもりで会話をする。C(2)イ</p> <hr/> <p>1 単元の学習課題をつかむ。</p> <p>2 1日目の出来事を読み取り、感想を伝え合う。</p> <p>3 1日目 「くまのこ」の行動のわけ・意味を考える。</p> <p>4 2日目の出来事を読み取り、感想を伝え合う。</p> <p>5 最後の場面での登場人物の気持ちを想像する。</p> <p>6 好きなお話を読んで、好きなところを紹介する。</p> <p>7 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・語のまとまりに気を付けて音読している。(1)ク</p> <p>【思・判・表】</p> <p>◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。C(1)エ</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいる。A(1)オ</p> <p>【主】</p> <p>・これまでの学習で気付いたことやできるようになったことを生かして見通しを持ち、積極的に、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像して、登場人物になったつもりで演じようとしている。</p>	<p>・朝の会で、「かいがら」から伝わる友情の温かさとテーマの似ている絵本を読み聞かせる。</p>
9	<p>ことばあそびうたをつくらう</p> <p>6時間(書6)</p> <p>教科書:上巻 P.122～125</p> <hr/> <p>既習事項との関連</p> <p>言葉の響きやリズムを楽しみながら詩を音読する。(1上「あるけあるけ／おおきなあれ」)</p>	<p>●身の回りのものから書くものを見付け、それに関わる音や様子を表す言葉を集めたり確かめたりして、擬声語や擬態語を使った詩を作ることができる。</p> <p>◇言葉遊び歌をみんなで作る。B(2)ウ</p> <hr/> <p>1 単元の学習課題をつかむ。</p> <p>2 身の回りのいろいろなものの音や様子を思い浮かべて、擬声語・擬態語で表してみる。</p> <p>3 自分たちの「ことばあそびうた」を作る。</p> <p>4 「ことばあそびうた」発表会を開く。</p> <p>5 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。(1)オ</p> <p>・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク</p> <p>【思・判・表】</p> <p>◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。B(1)ア</p> <p>・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合っている。B(1)オ</p> <p>【主】</p> <p>・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、必要な事柄を集めたり確かめたりして、言葉遊び歌を作ろうとしている。</p>	<p>・生活科の時間に動物や植物と触れ合い、感じた様子や聞いた音を擬態語や擬声語で表してみる。</p>

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元のねらい／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
9	<p>かんじの はなし</p> <p>5時間(書2読3) 教科書:上巻 P.126～129</p> <hr/> <p>既習事項との関連 漢数字の読み方や書き方を 知る。(1上「かぞえうた」)</p>	<p>●漢字の成り立ちや意味を考えながら、第1 学年に配当されている漢字を読んだり書い たりすることができる。 ◇漢字を使って文を作る。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 単元の学習課題をつかむ。 象形文字「山」「木」の成り立ちを理解し、 正しく書く。 象形文字「川」「口」「目」の成り立ちを理解 し、正しく書く。 指事文字「上」「下」の成り立ちを理解し、 正しく書く。 習った漢字を使って、文を書く。 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】 ◎学年別漢字配当表の第1学年に配当 されている漢字を読み、漸次書き、文の 中で使っている。(1)エ</p> <p>【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序など を考えながら、内容の大体を捉えている。 C(1)ア ・「書くこと」において、語と語との続き方 に注意している。B(1)ウ</p> <p>【主】 ・これまでの学習や経験で気付いたこと やできるようになったことを生かしなが ら、進んで、学年別漢字配当表の第1 学年に配当されている漢字を読み、漸 次書き、文の中で使おうとしている。</p>	
9	<p>おはなしをよもう サラダでげんき</p> <p>10時間(読6書4) 教科書:下巻 P.5～19</p> <p>【言葉の力】 だれがどんなことをしたかを たしかめる</p>	<p>●場面の様子や人物の行動など、内容の大 体を捉え、文章の内容と自分の体験を結び 付けて、感想をもつことができる。 ◇お話を読み、感じたことを伝え合う。C(2)イ</p> <hr/> <p>つかむ 1 単元の学習の見通しをもつ。</p> <p>取り組む 2 物語の中で起こった出来事をつかむ。 3 りっちゃんに教えたいことを考え、りっちや んに手紙を書く。 4 書いた手紙を読み合い、感じたことを伝え 合う。</p> <p>振り返る 5 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ・平仮名及び片仮名を読み、書してい る。(1)ウ ・事柄の順序など情報と情報との関係に ついて理解している。(2)ア</p> <p>【思・判・表】 ◎「読むこと」において、場面の様子や 登場人物の行動など、内容の大体を捉 えている。C(1)イ ・「読むこと」において、文章の内容と自 分の体験を結び付けて、感想をもつて いる。C(1)オ ・「書くこと」において、語と語や文と文と の続き方に注意している。B(1)ウ</p> <p>【主】 ・これまでの学習で気付いたことやでき るようになったことを生かして見通しをも ち、進んで、場面の様子や登場人物の 行動など、内容の大体を捉えて、感想 を伝え合おうとしている。</p>	
10	<p>かたかなをかこう</p> <p>3時間(知技2書1) 教科書:下巻 P.20～23</p>	<p>●片仮名の表記を理解し、正しく読み書きす ることができる。 ◇片仮名で書かれた言葉を集めて文を作る。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 片仮名の書き方を知るという学習課題を つかむ。 片仮名の書き方を知り、書く練習をする。 身近なものの中から片仮名で書かれた言 葉を集めて文を作る。 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】 ◎片仮名を読み、書くとともに、片仮名 で書く語の種類を知り、文の中で使っ ている。(1)ウ ・身近なことを表す語句の量を増してい る。(1)オ</p> <p>【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語との続き方 に注意している。B(1)ウ</p> <p>【主】 ・これまでの学習で気付いたことやでき るようになったことを生かしなが ら、積極的に、片仮名を読んだり書いたりし、身 近なものの中から片仮名で書かれてい る言葉を集めようとしている。</p>	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元のねらい／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
10	ほんはともだち 2時間(読2) 教科書:下巻 P.24～29	●いろいろな本を読み、読書に親しむことができる。 ----- 1 読みたい本を探して読むという単元の学習の見通しをもち、読書体験文の読み聞かせを聞く。 2 「一ねんせいのはんだな」を手がかりにして、読みたい本を探して読む。 3 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ 【主】 ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かしながら、進んで、いろいろな本を読み、読書に親しもうとしている。	
10	なにに見えるかな 6時間(話聞6) 教科書:下巻 P.30～35 【言葉の力】 はなしたのしくつなぐ	●互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて楽しく話をつなぐことができる。 ◇尋ねたり応答するなどして、グループで話し合う。A(2)イ つかむ 1 単元の学習の見通しをもつ。 取り組む 2 写真を見ながら、想像を広げて話し合う。 3 楽しく話をつなぐために大切なことをつかむ。 4 写真を見て考えたことについて3人で話し合う。 振り返る 5 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ 【思・判・表】 ◎「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。A(1)オ 【主】 ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、工夫しながら、互いの話に関心をもち話をつなごうとし、グループで話し合おうとしている。	・図工の時間に、落葉や木の実を使って作った絵について感想を伝え合う。 ・生活科の時間に、秋見つけをして気付いたことを伝え合う。
10	よう日と日づけ 3時間(知技2書1) 教科書:下巻 P.36～37	●曜日と日付を表す語句の量を増し、漢字を使って正しく読み書きすることができる。 ◇予定を伝える文を作る。 ----- 1 曜日と日付を表す言葉や漢字を使った書き方を知るという学習課題をつかむ。 2 曜日と日付を表す言葉を理解し、漢字を使って正しく読み書きする。 3 日付と曜日を使って、予定を伝える文を書く。 4 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ・学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ ◎身近なことを表す語句の量を増すとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(1)オ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ 【主】 ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、曜日や日付を表す語句の量を増し、予定を伝える文の中で使おうとしている。	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元のねらい／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
10	<p>はっけんしたよ</p> <p>8時間(書8) 教科書:下巻 P.38～41</p> <p>【言葉の力】 よく見てかく</p> <p>-----</p> <p>【既習事項との関連】 したこと、見たことを文章に書く。(1上「えにつきをかこう」)</p>	<p>●観察した動植物の様子を伝えるために必要な事柄を集め、伝えたいことを明確にして書くことができる。</p> <p>◇観察したことを記録する。B(2)ア</p> <p>-----</p> <p>【つかむ】</p> <p>1 これまでの経験を想起し、単元の学習の見通しをもつ。</p> <p>【取り組む】</p> <p>2 気付いたことを記録するための「はっけんメモ」を書く。</p> <p>3 「はっけんメモ」を基に、観察した動植物の様子を伝える文章を書く。</p> <p>【振り返る】</p> <p>4 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を書いている。(1)ウ ・身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(1)オ <p>【思・判・表】</p> <p>◎「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。B(1)イ ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。B(1)ウ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かして、しなければならないことを自覚し、粘り強く、伝えるために必要な事柄を集めたり確かめたりして、観察したことを記録し、報告する文章を書こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の時間に、身近な動植物を観察して、気付いたことを記録する。
11	<p>のりもののことをしらべよう</p> <p>いろいろなふね</p> <p>13時間(読7書6) 教科書:下巻 P.43～53</p> <p>【言葉の力】 せつめいの文しょうをよむ</p> <p>-----</p> <p>【既習事項との関連】 事柄の順序を考えながら読み、文章の中の重要な語や文を選び出して書く。(1上「どうやってみをまもるのかな」)</p>	<p>●事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。</p> <p>◇説明的な文章を読み、分かったことをまとめて伝え合う。C(2)ウ</p> <p>-----</p> <p>【つかむ】</p> <p>1 乗り物のことを調べてカードに書くという学習課題を確かめて、単元の学習の見通しをもつ。</p> <p>【取り組む】</p> <p>2 「いろいろなふね」を読み、読み取ったことをカードに書く。</p> <p>3 他の乗り物のことを調べて、カードに書く。</p> <p>4 調べたことをまとめたカードを紹介する。</p> <p>【振り返る】</p> <p>5 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(2)ア <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。C(1)ア ◎「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。C(1)ウ ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように、書き表し方を工夫している。B(1)ウ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、読んで分かったことをまとめて伝え合おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の時間に、生き物や植物について調べる。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元のねらい／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
11	<p>まとめてよぶことば</p> <p>3時間(知技2書1)</p> <p>教科書:下巻 P.54～55</p>	<p>●言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、上位語と下位語を理解して、語彙を豊かにすることができる。</p> <p>◇上位語と下位語を使って文を作る。</p> <p>-----</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 同じ仲間の言葉をまとめて呼ぶ言葉について知るとい学習課題をつかむ。 2 仲間になる言葉やまとめて呼ぶ言葉を集めたり分類したりする。 3 まとめて呼ぶ言葉と仲間になる言葉を使った短文を作り、概念の違いをとらえる。 4 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <p>◎身近なことを表す語句の量を増すとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(1)オ</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ</p> <p>【主】</p> <p>・これまでの学習で気付いたことやできるようになったことを生かしながら、粘り強く、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付いて語彙を豊かにし、上位語と下位語を使って文を作ろうとしている。</p>	
11	<p>すきなきょうかはなあに</p> <p>5時間(話聞4書1)</p> <p>教科書:下巻 P.56～59</p> <p>【言葉の力】</p> <p>じゅんじょよくはなす</p>	<p>●相手に伝わるように、話す事柄の順序を考え、声の大きさや速さなどを工夫して話すことができる。</p> <p>◇伝えたいことを話したり、それを聞いて感想を述べたりする。A(2)ア</p> <p>-----</p> <p>つかむ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 これまでの経験を振り返り、単元の学習の見通しをもつ。 <p>取り組む</p> <ol style="list-style-type: none"> 2 好きな教科について考える。 3 話す練習をする。 4 みんなの前で話す。 <p>振り返る</p> <ol style="list-style-type: none"> 5 単元の学習を振り返る。 	<p>【知・技】</p> <p>・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア</p> <p>・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア</p> <p>【思・判・表】</p> <p>◎「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、話す事柄の順序を考えている。A(1)イ</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。A(1)ウ</p> <p>・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ</p> <p>【主】</p> <p>・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、相手に伝わるように、話す事柄の順序を考え、みんなの前で説明しようとしている。</p>	<p>・朝の会で、日直がスピーチをする。</p> <p>・生活科の時間に発表する。</p>
11	<p>ことばであそぼう</p> <p>3時間(知技3)</p> <p>教科書:下巻 P.60～61</p> <p>-----</p> <p>既習事項との関連</p> <p>語彙を豊かにするとともに、平仮名の読み書きに習熟する。(1上「ことばあそび」)</p>	<p>●言葉遊びを通して言葉の豊かさに気付くことができる。</p> <p>◇回文やだじゃれを読んだり作ったりする。</p> <p>-----</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 上巻の「ことばあそび」を振り返り、本教材で学習することをつかみ、見通しをもつ。 2 「さかさによんでも」(回文)で遊ぶ。 3 「だじゃれ」で遊ぶ。 4 「わたしはだあれ」で遊ぶ。 5 言葉遊びの面白さについて振り返る。 	<p>【知・技】</p> <p>◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。(3)イ</p> <p>【主】</p> <p>・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かしながら、長く親しまれている言葉遊びを通して、積極的に、言葉の豊かさに気付こうとしている。</p>	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元のねらい／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
11	<p>おもい出してかこう</p> <p>9時間(書9) 教科書:下巻 P.62～65</p> <p>【言葉の力】 じゅんじょにきをつけてかく</p> <hr/> <p>【既習事項との関連】 順序よく話す。(1下「すきな きょうかはなあに」)</p>	<p>●経験した順序に沿って簡単な構成を考え、 語と語や文と文との続き方に注意しながら、 内容のまとまりが分かるように書き表し方を 工夫することができる。 ◇経験したことを報告する。B(2)ア</p> <hr/> <p>【つかむ】 1 これまでの学習や生活経験を想起し、単 元の学習の見通しをもつ。</p> <p>【取り組む】 2 分かりやすく伝えるために、何をどのよう に書けばよいかを考える。 3 文章を書いて友達と伝え合う。</p> <p>【振り返る】 4 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ・かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章 の中で使っている。(1)ウ ・事柄の順序など情報と情報との関係に ついて理解している。(2)ア</p> <p>【思・判・表】 ◎「書くこと」において、自分の思いや考 えが明確になるように、事柄の順序に 沿って簡単な構成を考えている。B(1)イ ・「書くこと」において、語と語や文と文と の続き方に注意しながら、内容のまと まりが分かるように書き表し方を工夫して いる。B(1)ウ ・「書くこと」において、文章を読み返す 習慣を付けるとともに、間違いを正したり、 語と語や文と文との続き方を確かめ ている。B(1)エ</p> <p>【主】 ・これまでの学習や経験で気付いたこと やできるようになったことを生かして見 通しをもち、進んで、事柄の順序に沿っ て簡単な構成を考え、経験したことを報 告しようとしている。</p>	<p>・他教科等の学 習や学校行事 での経験を友 達や家の人に 伝える。</p>
12	<p>こえに出してよもう おとうとねずみチロ</p> <p>12時間(読9話聞3) 教科書:下巻 P.67～81</p> <p>【言葉の力】 人ぶつの気持ちをかんがえる</p>	<p>●場面の様子に着目して、人物の行動を具体 的に想像し、自分の体験と結び付けて感想 をもつことができる。 ◇お話を読み、内容や感想を伝え合ったり、演 じたりする。C(2)イ</p> <hr/> <p>【つかむ】 1 単元の学習の見通しをもつ。</p> <p>【取り組む】 2 人物の行動や、物語の中で起こった出来 事確かめる。 3 チロの気持ちを考え、物語を音読する。</p> <p>【振り返る】 4 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話 の中で使うとともに、言葉には意味によ る語句のまとまりがあることに気付き、語 彙を豊かにしている。(1)オ ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付 けて音読している。(1)ク</p> <p>【思・判・表】 ◎「読むこと」において、場面の様子に着 目して、登場人物の行動を具体的に想 像している。C(1)エ ・「読むこと」において、文章の内容と自 分の体験とを結び付けて、感想をもつ ている。C(1)カ ・「話すこと・聞くこと」において、互いの 話に関心をもち、相手の発言を受けて 話をつないでいる。A(1)オ</p> <p>【主】 ・これまでの学習や経験で気付いたこと やできるようになったことを生かして学 習の見通しをもち、積極的に、人物の 行動を具体的に想像し、お話の内容や 感想を伝え合ったり演じたりしようとして いる。</p>	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元のねらい／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
12	すきなおはなしはなにか な 7時間(読4書3) 教科書:下巻 P.82～85 【言葉の力】 おはなしをたのしむ ----- 【既習事項との関連】 物語に登場する人物について理解する。(1下「おとうとねずみチロ」)	●読書に親しみ、好きな物語を読んで感じたことを共有することができる。 ◇読み聞かせを聞いたりお話を読んだりして、内容や感想を伝え合う。C(2)イ ----- 【つかむ】 1 これまでに読んだ本を振り返り、単元の見通しをもつ。 【取り組む】 2 友達に伝えたい好きなお話や人物を決める。 3 「しょうかいカード」を書く。 4 好きな物語や好きな人物について紹介し合う。 【振り返る】 5 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ・読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ 【思・判・表】 ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことを共有している。C(1)カ ・「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア 【主】 ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、文章を読んで感じたことを共有しようとしている。	・生活の中の読書に生かす。
1	しをよもう みみずのたいそう 2時間(読2) 教科書:下巻 P.86～87 ----- 【既習事項との関連】 場面の様子を想像して、言葉の響きやリズムを感じながら音読する。(1上「あるけあるけ／おおきなあれ」)	●詩の内容の大体を捉えて、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。 ◇詩を読んで、内容や感想を伝え合ったり演じたりする。C(2)イ ----- 1 単元の学習の見通しをもつ。 2 様子を想像して読み、好きなところや読んだ感想を発表し合う。 3 全員で読んだり友達と交代して読んだりするなど読み方を工夫して、詩を楽しむ。 4 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク 【思・判・表】 ◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。C(1)イ 【主】 ・これまでの学習や経験で気付いたことや考えたことを生かして見通しをもち、積極的に、場面の様子など、内容の大体を捉えて、感想を伝え合ったり演じたりしようとしている。	
1	むかしばなしをたのしもう 6時間(読6) 教科書:下巻 P.88～91	●読み聞かせを聞くなどして、昔話に親しみ、おもしろいと思ったところを共有することができる。 ◇読み聞かせを聞いたり自分で読んだりして、内容や感想を伝え合う。C(2)イ ----- 1 単元の学習課題をつかむ。 2 付録教材「花さかじいさん」などの読み聞かせを聞いて、昔話の独特な語り口調や展開などを楽しむ。 3 興味を持った昔話の本を探して、読み聞かせを聞いたり自分で読んだりする。 4 これまでに読んだ昔話の中からおもしろかったものを選んで、好きなところを発表する。 5 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ◎昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。(3)ア 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。C(1)カ 【主】 ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しみ、色々な昔話の内容や感想を伝え合おうとしている。	・朝の会で、児童が選んだ昔話の絵本を取り上げて、読み聞かせをする。

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元のねらい／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
1	<p>おはなしをかこう</p> <p>9時間(書9) 教科書:下巻 P.92～97</p> <p>【言葉の力】 人ぶつをかながえておはなしをか</p> <p>-----</p> <p>【既習事項との関連】 昔話を楽しむ。(1下「むかしばなしをたのしもう」)</p>	<p>●想像したことから書くことを見付け、登場する人物について考え、その人物がどんなことをするのかを明確にして、簡単なお話を書くことができる。</p> <p>◇昔話を基に、簡単なお話を作る。B(2)ウ</p> <p>-----</p> <p>【つかむ】</p> <p>1 これまでの学習を振り返り、単元の学習の見通しをもつ。</p> <p>【取り組む】</p> <p>2 知っている昔話を出し合い、元にするお話を決める。</p> <p>3 人物メモを書く。</p> <p>4 選んだお話を元にしてお話を書く。</p> <p>5 友だちとお話を読み合う。</p> <p>【振り返る】</p> <p>6 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使っている。(1)ウ ・学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(1)エ <p>【思・判・表】</p> <p>◎「書くこと」において、想像したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。B(1)ウ ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。B(1)オ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、工夫しながら、想像したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、昔話を基に簡単なお話を作ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽科で、発想を生かした表現や、思いに合った表現をしたり、図画工作科で感じたこと、想像したことから、表したいことを見付けたり、絵に表したりする。
1	<p>かたかなのかたち</p> <p>3時間(知技2書1) 教科書:下巻 P.98～99</p> <p>-----</p> <p>【既習事項との関連】 片仮名の表記を理解し、正しく読み書きする。(1下「かたかなをかこう」)</p>	<p>●平仮名の字形との違いに気を付けながら、片仮名の言葉を書き、文の中で使うことができる。</p> <p>◇平仮名と似ている片仮名を集める。</p> <p>-----</p> <p>1 学習課題をつかみ、学習の見通しをもつ。</p> <p>2 平仮名と似ている片仮名を探して書く。</p> <p>3 似ている片仮名を探して、文を作る。</p> <p>4 どのようなことに注意すればよいか振り返り、字形に気をつけて書くことを今後に生かす。</p>	<p>【知・技】</p> <p>◎平仮名や片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文の中で使っている。(1)ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近なことを表す語句の量を増している。(1)オ <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意している。B(1)ウ <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、平仮名や片仮名を読んだり書いたりして、平仮名と似ている片仮名を集めようとしている。 	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元のねらい／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
2	<p>くらべてよもう 子どもをまもろうぶつたち</p> <p>14時間(読9書5) 教科書:下巻 P.101～111</p> <p>【言葉の力】 くらべてかんがえる</p> <p>-----</p> <p>既習事項との関連 説明の文章を読む。(1下「いろいろなふね」)</p>	<p>●二つの動物の説明を比べて読み、似ているところや違うところを見つけて共有することができる。</p> <p>◇説明的な文章を読み、分かったことを伝え合う。C(2)ア</p> <p>-----</p> <p>つかむ 1 単元の学習の見通しをもつ。</p> <p>取り組む 2 二つの動物について、書かれていることを読み取る。 3 二つの動物を比較し、特徴、子どもの身の守り方を違いについて表にまとめる。 4 二つの動物を比べて、気づいたことを交流する。 5 他の動物の知恵や生活について、本で調べる。</p> <p>振り返る 6 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア</p> <p>【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。C(1)ウ ◎「読むこと」において、文章を読んで分かったことを共有している。C(1)カ ・「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア</p> <p>【主】 ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、文章を読んで分かったことを共有し、伝え合おうとしている。</p>	<p>・生活科での調べ学習。 ・情報を比べて考える。(情報活用能力)</p>
2	<p>ことばをあつめよう</p> <p>3時間(知技1書2) 教科書:下巻 P.112～113</p> <p>-----</p> <p>既習事項との関連 助詞「へ」「を」の使い方を理解する。(1上「をへをつかおう」)</p>	<p>●身近なことを表す語句を集め、語と語との続き方に注意して、文の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。</p> <p>◇集めた言葉をつないで文を作る。</p> <p>-----</p> <p>1 学習課題をつかみ、学習の見通しをもつ。 2 教科書の言葉をつなげて文を作る。 3 言葉を集めて、文を作る。 4 学習を振り返り、いろいろな言葉でつながりを試す。</p>	<p>【知・技】 ◎身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(1)オ</p> <p>【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ</p> <p>【主】 ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、身近なことを表す語句の量を増し、集めた言葉をつないで文を作ろうとしている。</p>	
2	<p>小学校のことをしょうかいしよう</p> <p>6時間(話聞5書1) 教科書:下巻 P.114～117</p> <p>【言葉の力】 できごとのじゅんにはなす</p>	<p>●来年度の新入生に、小学校生活を楽しまししてもらえるように、経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えて話すことができる。</p> <p>◇紹介したいことを話す。A(2)ア</p> <p>-----</p> <p>つかむ 1 これまでの経験を振り返り、単元の学習の見通しをもつ。</p> <p>取り組む 2 どんなことをどんな順序で話すとよいかを考える。 3 小学校について紹介することを決める。 4 話す練習をする。 5 グループで聞き合う。</p> <p>振り返る 6 単元の学習を振り返る。</p>	<p>【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア ・学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア</p> <p>【思・判・表】 ◎「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。A(1)イ ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。A(1)ウ ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意している。B(1)ウ</p> <p>【主】 ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、工夫しながら、経験したことに基づいて話す事柄の順序を考え、紹介したいことを話そうとしている。</p>	

月	単元・教材 既習事項との関連	●単元のねらい／◇言語活動 主な学習活動	単元の評価規準 (学習指導要領との対応)	他教科等との関連
3	すきなところを見つけよう スイミー 12時間(読10話聞2) 教科書:下巻 P.119～135 【言葉の力】 おはなしのすきなところを見つけよう	●人物の行動を具体的に想像して、自分の体験と結び付け、お話の好きなところを見付けることができる。 ◇お話の好きなところを伝え合ったり演じたりする。C(2)イ つかむ 1 単元の学習の見通しをもつ。 取り組む 2 スイミーの行動や会話などを手がかりに、場面の様子を想像しながら読む。 3 物語の中で好きなところを見つける。 4 物語の中で好きなところを音読する。 振り返る 5 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。C(1)エ ◎「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。C(1)オ ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。A(1)ウ 【主】 ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、お話の好きなところを伝え合ったり演じたりしようとしている。	
3	かたちのにているかん字 3時間(知技1書2) 教科書:下巻 P.136～137	●字形の似た漢字を区別し、正しく読み書きすることができる。 ◇形の似た漢字を集める。 1 形の似た漢字を正しく使い分けるという学習課題をつかむ。 2 形の似た漢字を使って短文を作る。 3 既習の漢字の中から形の似ているものを探して、短文を作る。 4 学習を振り返って、字形に注意して読み書きすることを確認する。	【知・技】 ◎学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文の中で使っている。(1)エ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語との続き方を確かめたりしている。B(1)エ 【主】 ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かしながら、積極的に、学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、形の似ている漢字を集めようとしている。	
3	一年かんをふりかえろう 8時間(書8) 教科書:下巻 P.138～141 【ことばの力】 かいた文しょうをよみかえす 既習事項との関連 1年間の「書くこと」の学習	●これまでに書いた文章から一つ選んで書き直し、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができる。 ◇一年間を振り返り、いちばん心に残っている出来事を報告する文章を書く。B(2)ア つかむ 1 これまでの学習を振り返り、単元の学習の見通しをもつ。 取り組む 2 1年間で書いた文章を読み返し、家の人に伝える出来事を決める。 3 出来事を伝える文章を書く。 振り返る 4 単元の学習を振り返る。	【知・技】 ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使っている。(1)キ 【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア ・「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。B(1)エ ◎「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。B(1)オ 【主】 ・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、自分の文章の内容や表現のよいところを見付け、いちばん心に残っている出来事を報告する文章を書こうとしている。	・生活科の時間に書いた文章を読み返す。